



ポストシンギュラリティの時代に生きる子どもたちに

校長 田屋 多恵子

秋の青空がどこまでも広がっています。今年から2学期制になり、後期のスタートを切りました。子どもたちは、落ち着いてそれぞれの行事や学習に取り組んでいます。これも、地域の方々や保護者の皆様のご協力やご理解のおかげと感謝しております。

29日(月)に、1年生、2年生のズーラシアの遠足に行ってきました。昔と変わらぬ遠足です。紅白帽をかぶり、動物園に行くこと、これは長い教育の歴史の中で戦前も、戦後もずっと変わりなく行われてきたことです。しかし、今、目の前にいる子どもたちが、生きていくこれからの社会は、今までと同じではありません。

これから20数年後、ちょうど現在の小学生が社会人として活躍する2045年には、人口知能が人間の知能を追い越すことになるといわれている「ポストシンギュラリティ」(技術的特異点)という時代が確実にやってきます。米国の未来学者レイ・カーツワイルは、2045年にシンギュラリティが到来すると予言しています。野村総合研究所が「10～20年後国内の労働人口の約49%がAIやロボットで代替可能になる」とし、この本は、雇用の消失という面から注目されました。

そのような世の中がもう身近にせまっているとしたら、今できることは現状から解決すべき課題を発見し、解決方法を自分たちで考えて実行し、いまある現実を多少なりとも変えていける力をつける教育を行うことではないでしょうか。そのような意味から、今、羽沢小学校が取り組んでいるESDの視点から「生活」「総合」を中心に、今ある現実の中から課題を見つけ追及していく学習はまさにこれからの時代「ポストシンギュラリティ」の時代に対応しているのではないかと思います。

1年生は学習に関連の企業や協力者そして地域の人にご協力いただき、学習を展開しています。2年生は野菜の育て方を有田さんの畑を見学して学んでいます。また、3年生の総合の時間では、内田さんからえだまめやキャベツの作り方を学んでいる学級や移動販売のパン屋さん「エッセン」に注目し、パン作りに挑戦しながら移動販売の「エッセンの秘密」を追及している学級があります。

4年生は、お囃子の高城先生からお囃子を教えていただきながら長く続いている日本の伝統文化について学んだり、リサイクルで環境創造局と交流したりしています。また、5年生は、パルシステムの方のご協力を得て、お米作りをしてきました。また、11月には、6年生が、NPO「横浜すばいす」を始め、企業アクセンチュア、CANVAS、横浜情報専門学校の学生さんの協力を得て、プログラミング体験を行います。これからも企業や地域協力者の方々のお力をお借りしてより豊かな教育活動を実施していきたいと思ひます。